

痛みなく乳がん検診

【新得・広尾】社会医療法人北斗・新得クリニック(新得町3条南5、一井雄二院長)は、MRI(磁気共鳴画像装置)を用いた乳がん検診を始めた。乳房が圧迫される痛みが生じず、乳腺組織が発達した人(高濃度乳房)でも、がんの発見率が高いことなどが特長。北斗によると、十勝管内では初めてで、「乳がん検診をためらっている女性は、ぜひ受診を」とする。

国立がん研究センターが
ん情報サービスの最新がん
統計(2017年)による
と、乳がんは女性の9人に
1人が罹患するなど、女性
のがんの中で最も患者数
が多い。早期発見と適切な
治療で、仕事や子育てに
復帰できる可能性も高いが、
日本医師会によると、乳房
用のエックス線撮影「マン
モグラフィ」などの検診
受診率は50%に満たない
現状もある。

同クリニックが導入した
「無痛MRI乳がん検診」
は、東海大学の高原太郎教
授(放射線科専門医)が開
発した撮影法(ドワイプス
・サーチ)を用いる検査。
胸部の断面を数枚撮影し
て、黒く映る病変を見つけ
る。撮影時間は10分程度。
MRIのベッドには、乳

北斗・新得クリニック、広尾町国保病院

十勝初のMRI導入 検査着脱がず圧迫なし



「無痛MRI乳がん検診」は、うつぶせに寝て検査を受ける

房の形にくりぬいたパッド
が載っており、受診者は検
査用の着衣を着たまま、う
つぶせに寝て検査を受け
る。撮影された胸部の断面
画像は東京に送られ、高原
教授が解析する。

乳がん検診の主流で、初
期症状の発見にも有効なマ
ンモグラフィは、乳房を
板で挟んで圧迫するため、
「人によっては痛みや抵抗
感がある」(同クリニック)
ほか、日本人女性に多い高

濃度乳房は、診断が難しい
ケースもある。

また、乳腺エコー(超音
波検査)は、「乳房を見ら
れることに抵抗を感じる女
性には避けられる」(同)
傾向もあるという。

無痛MRI乳がん検診
は、マンモグラフィや乳
腺エコーのデメリットを解
消できるほか、「触診やエ
コーに比べて、乳房の死角
が少ないのが特長」とい
う。さらに、高濃度乳房の割合

が多く、がん検診の年齢に
達していない20〜39歳の
人や、乳房の再建手術を受
けた人の検査も可能とい
ったメリットもある。

同クリニックは、無痛MRI
乳がん検診の開始に合
わせて、これまでの検診(ス
マイルドック)をリニューアル。
がん、脳、心臓の各

コースに加え、乳房、肺、
膵臓(すいぞう)の部位別
がんコース検診(1万65
00円。新得町民は町の助
成制度がある)を設けた。
無痛MRI乳がん検診
は、同法人と連携している
広尾町国民健康保険病院
も、同時に始めている。

(松岡秀宣)